平成30年度 鹿児島県共生・協働型地域コミュニティづくり推進優良団体表彰　NPO部門　会長賞

霧島市

NPO法人霧島食育研究会

団体の紹介・活動の目的

霧島の食農育による地域づくりの実践として「学ぶ・創る・耕す・つながる」霧島の食育活動に取り組んでいる。

活動の目的は「食を大切にする文化をこの霧島で創る」ことであり以下の３点を活動の具体的な方針としている。

1　多くの人が自分の毎日の食について、少し立ち止まって考えてみること
2　家庭や地域に伝わる食べ物や食生活の知恵について、見直してみること
3　食べ物が自分の口に入るまでにいろいろな人が関わってきたことに気付くこと

連携・協力している団体など

鹿児島県および県農政課（かごしまの食推進事業助成金交付）、霧島市（霧島・食の文化祭で協力体制）、鹿児島女子短期大学（食農体験の提供・霧島食の文化祭の参画）、南九州大学（食農体験の提供・霧島食の文化祭の参画）、愛林館（棚田食育士養成講座の共催・霧島食の文化祭の参画）、霧島男性料理教室（霧島食の文化祭参画）、かごしま郷土料理マイスター協会（郷土料理伝承活動支援・霧島食の文化祭参画）、霧島食育サポータークラブ（食文化継承活動支援・食農体験の提供、霧島食の文化祭の参画、主催行事の活動協力）、南日本新聞社（毎月紙面に「かごしま食育レシピ」および「お弁当レシピ」の掲載）、南日本放送（毎月一回「ズバッと鹿児島」「かごしま4時」の中で「初めての郷土料理」コーナーを放送）、その他霧島市内保育園等

活動の内容

霧島の食文化という地域資源を「無いものねだりではなく有るものさがし」の「地元学」の手法を用い、「植え方から食べ方まで」の一貫した食農体験活動や郷土料理継承活動を定期的、長期的に実施している。さらに活動のノウハウやレシピ等をテキスト化し、広く内外に継承・広報すると共に、地元の食と農の技術を記録する資料となっている。

メインの活動である「霧島・食の文化祭」は「子や孫に残したい霧島の食は何ですか」をテーマに開催し、15回で出品された1800品以上の霧島の家庭料理・郷土料理は、「霧島の食の記憶」として記録している。

①

「霧島・食の文化祭」

「子や孫に残したい霧島の食は何ですか」をテーマに開催し、家庭料理の展示・食育ワークショップ等を実施。毎回100名以上のボランティアスタッフにより運営されている。

②

「霧島たべもの伝承塾」「かごしま郷土料理マイスター講座」

食文化の継承を目指し累計約300回実施。それぞれオリジナルレシピ集を作成し、定期的に新聞・テレビで紹介し、鹿児島県内外に発信している。

③

「霧島畑んがっこ」

大豆・米栽培を実施。幼児から高校生・その保護者を対象に、人力で作業できる「唐箕」「めぐり棒」などを使用し、「食の営み」を学んでいる。

④

「オリジナル教材・レシピ集」

霧島の家庭料理を掲載した「家庭料理大集合」№1～14、かごしま郷土料理マイスター講座レシピ集、霧島里山レシピ集など。